

卷之三

67
11
18

社會主義學生同盟
廣西地方法院公

工場ターファイトで佐世保寄港実力阻止、暴走米兵実力
防衛の手立て、日米アローレタリーア人民の口舌主張が深
めの「吉田保政治決戦」という抜け!
大3大4の糸田半蔵といひ出で、破面法適用の轟轟
碎也。

黒色細胞の「アセチルコリニン」の
①ホルモン作用が細胞の細胞膜に作用して、
細胞膜の擴張の程度を増す。ローリヤ
ス+黒色細胞でアセチルコリニン=アロ
マニル酸アセチル=アセチルコリニン
レタニアム+アセチルコリニンの混合物
のものにアセチルコリニンの
導入部位に注入してローリヤス+ア
セチルコリニンの生産過程、その永続性
のためアセチルコリニンが、アセチ
ル+アセトニ、細胞中の累積を防ぐ
ために、細胞中の累積を防ぐ。

發生的暴動と、労働者・兵士（農民）の权力に上るるのに——主又が成功した要因は次のものである。オエに、労働者階級又其の他の諸階級、譲督（ミーチナ）の破壊力に在りし、組織された暴力にて軍事的（アーミー）を形成した二と、オエニ、一の兵士労働者の結合を本質的にもたらしたものは何か。それが日露主又である。オエニ、固知の事變として、革命の指導者——前江、革命の指導的階級としてのペロシタコフアーテモヨの軍隊（陸軍）をロシアに於ての大暴動の田で形成した。

『現代藝術の教訓』(1933年) 保木謙の展望

② かかる觀点から見れば、さうした革命思想である。ローランの思想と大胆に類似するところとして、(1) 革命思想に対する強調であり、(2) かつ政治を大胆に実現するための手段として、(3) そのために単純な口上たりアートによる宣傳活動をしてしまうことである。しかし、(1) はスムーズに革命の敗北の悲劇の結果である。オランの問題即ち(2) つまりの前狂党的分裂の問題である。革命的オランイテとの結合の問題である。しかし、その過程で、前狂党、販賣主義者階級を、政治斗争に於て、革命の指導的階級に成長させるとして、かつ、その過程で、その具体的政治大綱の指導的階級としてのローランアートの形成を、(3) それ自身も、このことは、何よりも、その具体的な形態として、(4) 動員者階級の經濟斗争の徹底化を達成していくことである。これが、(5) 政治権力闘争題目を提起されると、労働者階級の要求は、組合主義の延長線上に、(6) 政府を離れて、(7) その態度は、(8) ローランアートの衰弱によって、(9) その組織化に裏打ちとして、革命的運動に登場させたのである。事実 1919 年 1 月 8 日の第三回にかけて、最も深刻な政治的危機に陥った。これは、ルンブルスの連絡と援助、街頭での大暴行、小ヌルの突撃隊としての挑発、そしてロシニアの組織性を欠くといつても、このことは本質的に政治的面の如く、生活の援助（保護）や、社会的問題を以ての政治的問題である。

③イタリア工場の労農の敗北とレ

ッソーニー＝フアニスの勝利は

オイに紹介階級工場のカーティ

カーデム、それを説明したゴー

ルティ政党的相互補完関係＝一部

工業一連幹部ローラニアードのス

ロックに、イニテリールブルー苗

部農業のストライクの対抗関係の由

で、グンリーニの組織がこれに暴

力で勝利を勝ち取った。

アロンドローラニアードのス

トヨの結婚が勝利した。トーリー

工場議会運動は、基本的にゼ

ネストラニエラードの田舎地主政

府、農本との対抗関係の中で自己

の発展の意識を追求する段階にそ

れの個体、即ち第一回議会田舎地主

の連闘となり、ドミンゴの域を出な

い。当時ローラニアードの派遣さ

れで、アントニオ・ニコロニ

の連闘となり、ドミンゴと規定

したが、ローラニアードの労使ソビ

エトドリーナの連闘となり、アントニ

オ・ニコロニの連闘であるこ

とに、結果に着いたりしないのであ

り、この段階でトーリーの労農同盟

の思想が固形化である。トーリー三

点を確認しておきたいところであ

る。トーリー工場

議会運動の指導者は、グラムシ

トニマッティ、タスカであるが、

共産主義者であるトーリー大佐に

べくしてこの立場を取ることによって

その限界の責任を負ひはじめてキ

むこと。こうした事は、彼らが、

トリニ工場アロレタリオの代表

者であり、彼らが、PCC（イタ

リア共産党）の指導者として成長

するが、既に、ナショナル年

に、PCC（イタリア社会党）の

紙闇紙スパンティの主導であり、

暴力革命の信奉者であり、ナショ

ナリズムと結合へ大戦支持）した

レッソーニーに敗北した。そして

カラムシはフアンズの敗北の教

訓として、革命が暴力革命である

こと、ハブルを重視統括している。

そこで、革命が暴力革命である

と、ハブルを重視統括している。

アーティフ・シャボーネイタ

リア現代史（藤木道郎「カラムシ

論」）A.カラムシ（共産主義者）

特に5章、資本論に対する革命

及び、日会議説）

④1920年代におけるヨーロッ

パ半労働の敗北とフランス人民

戦線、スペイン市民戦争の教訓は

既にシニトレーラード（ヨーロッ

パ労働運動の悲劇）トロッキーベ

ラモア（8次は街か等）に明らか

が、ハーレーによるが、この次元で語

らられてくることを常識としてこう

二度める鍵は、オーネ、小アルの

大衆運動とそのナチズム、特に

組合文化に累行、及び、幻想の自

由生（アーティフ・シャボーネイタ）

のアーティフ・シャボーネイタと議会主義へ

II人民戦線政府（共和政府）→ダ

3に、国民党の内閣である。

従来より指摘された問題点は、

オーネ、共产党主義者の組合主義的

政治、即ち、共产党と市民の相違

は、経済政策において、いかがる

賃金の大きさの相違でしかなかつ

たこと、この事の教訓は労働者階

級へ大胆に政治を持ち込み、かつ

ゼネスト実行委員会の組織によつ

て、強力さを獲得する」と、オーネ

に、社会アラズム（諦）による社民

と共产党との対決、即ち、おくれ

た後としての暴幹アロレタリオ

ーと尖鋸なるとしてのレンツロ

トリニー工場アロレタリオの代表

者であり、彼らが、PCC（イタ

リア共産党）の指導者として成長

するが、既に、ナショナル年

に、PCC（イタリア社会党）の

紙闇紙スパンティの主導であり、

暴力革命の信奉者であり、ナショ

ナリズムと結合へ大戦支持）した

として深めるべき東は、オーネ

ニーの交替

一々3期論の統括一

①↑においには、無政府主義

争（→ 权力争奪）の時期にわざせ

た後、左派の安定の時代における

大衆性の獲得の困難を象徴したが

多くは、权力争奪が提起された時、共

和政府に参加せざるを得ないとい

う構造をもつていた。

そこで、オーネに審議構築に規定され、权力争奪を提起し、やがて、社会党の政権構想、共产党の民主連合政府論に集約されるとして、社

共アロレタリオの構成物としての限界

結合によって保障がある」と、即ち

両者の街頭における共同行動と物

質感態をもたらす所の後者がより前者

への援助である。又に、経済的

危機リ破局に先行する時代において

この労働者階級に大胆に政治を提

起し、前回の獲得と同時に、最も

組織性においてすぐれた労働者階級と

して形成すること、このことをね

てにしては、フランスとスペインの

の主義が示すように、全般的危機

に対する労働者の自然発生的斗争

とその根底化（サン・アイカリズム

は、政治リ权力問題を要求された

時にしては、アラズムの文書を要

求し、かつ承認した。フランス人

民族線の形成とその接觸は、パニ

リストによるナチズムの产生

スペインや日本、パニセロナの手

労働者内ナチズムの結果であり、

スペインや日本、パニセロナの手

リストによる反フランコ武装斗争

に完全な先進性を示しながら、や

は、权力争奪が提起された時、共

和政府に参加せざるを得ないとい

う構造をもつていた。

②戦後、日本と民主主義の崩壊は資本主義経済の破壊とスルニ日本支配の統治原理の崩壊の中で、經濟が政治に先行し、自然発生的反アーリエートの徹底にてヨリはアーリエート・カントリーカリスマ（ナショナル・カントリーカリスマ）へ「ヨルノ・！」とネストを復興とする、を形成した。この前段（政治指導者としての「ヨルミヨリ」は、今と正べヨリよりに過去の「歴史的」の跡経験と同じように、その結果として、特にその敗北の結果として、アーリエート政権の問題をもこうして、単なるエリートの反対によって形成されたかかる政府の崩壊大衆全体への無能力と中間的幼稚は、丘吉ルの分裂を促進し、丘吉ル産別会議（半観的にロマンド部であつた日本共産党的單線的方針丘吉ル主文の移行をうみだす）が、その対抗関係にありて、丘吉ル部であつた日本共産党的小部（即ち産別民主化同盟の形成を生みだし、GHQハ占領軍のテコイレで誕生したこの右派は、大衆の代表者である限り、オエに、因際情勢の悪化、日本復元主文の再建による政治（ニワシ・フランシス・「譯和条約」、即譯（改憲）の進歩、オエに、日本讀書主文の脆弱性に、必ず専門組合大衆と幹部の経済斗争における丘吉化（=氏同丘吉）、次いで、かねる基盤の下に政治手にあける丘吉ル（リ社民丘吉）が登場した。しかし、朝鮮戦争一特開を契機とした日本復元主文の再興の中で、弟伊澤赳は、特に民間大衆層が仰別資本との斗争に敗北し、50年代後半のオニ賛成綱領の時代に入る。この組合（即ち主文的經濟政策と市民的政治政策）である、前者は斗争形態として看ヨリアリ（大中賛上げであり、この特徴は、フレクマテイズム（即理主義）である。食料は、二の方法によつて一定の力関係の持続と、大家の獲得と実現し、市民的政治

十年の夏盤を形成してゐる。しかし、この構造は、この時代の政治斗争の全貌では、60年安保斗争の最終局面に於て、社会突入戦術を媒介にして、政府危機→権力問題の提起という因襲的状況をもつてからがらも、二つの密接な連絡によって、日長六年五月の「日長六年五月の密接」ことかで、日長六年五月以後の新たに形成された社共スロックの駆逐派としての補完物の限界を突破せざるが爲た。

(注) 清水慎三『故日本の革新勢力、京都府農連 政治過程論』

③として階級情勢の進行する過渡期に高度成長全盛による累積と日本韓会談による生活ナショナリズムの登場の時代において、丘派は基本的に大衆との結合を因へてモニーリチアと民主主義の二つにオーロガラ、組織化を遂行した(B)と新しいヘドモニー(即ち主導性と暴力)との矛盾は頓挫に達した。

そこには丘派の全盛を基にした暴力の登場と、オーロガラの、新しい政治的階級部隊による反政の登場である。このすぐれに特徴する、終評は底辺の聯合主義的組織斗争に依拠するとハクマリをも利用して明確に政治をヨウ部隊として登場に至ることである。(注) 10/18
19年における地区反戦の発行者は600名から12月まで約1100名である。このすぐれに特徴する、終評は底辺の聯合主義的組織斗争に依拠するとハクマリをも利用して明確に政治をヨウ部隊として登場に至ることである。(注) 10/18
この対談への反応の中には、この構造と国民的環顧での丘派の基督教の形成である。二の層な環顧東洋における、国民大衆の形成とこれがヨウの、即ち近畿の母郷や、四